

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	第4回 河内長野市観光振興計画策定委員会
2 開催日時	平成30年3月9日(金) 午後4時30分から
3 開催場所	河内長野市立市民交流センター(キックス) 4階イベントホール
4 会議の概要	(1) パブリックコメントの結果について (2) 河内長野市観光振興計画(最終案)について (3) その他
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	1名
7 問い合わせ先	(担当課名) 環境経済部 産業観光課 (内線 479)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

第4回河内長野市観光振興計画策定委員会（平成30年3月9日） 議事要旨

【出席委員】

尾久土委員長、清水副委員長、徳永委員、中島委員、阪谷委員、尾之上委員、高橋委員

【出席事務局メンバー】

(市)：太口環境経済部長、尾西産業観光課長、森田産業観光課参事

長野産業観光課課長補佐兼係長、畑中産業観光課係長、西本産業観光課副主査

(コンサル)：株式会社 都市設計総合研究所 田中所長

1 開会

2 開会のあいさつ（尾久土委員長）

始めていく前に、観光のトピックスを。経済産業省が作った「観光予報プラットフォーム」というサイトをみると、2016年、2017年に河内長野市に宿泊した外国人のデータがあり、国別の人数を見ると、2016年では1位が韓国。2位が香港。3位が中国。4位が台湾。2017年では1位が韓国。2位が香港。3位が中国まで変わらず4位がノルウェー。その後オーストラリア、台湾、フランス、スペイン、アメリカ、ルーマニア、シンガポール、タイとさまざまな国名が挙がっている。河内長野市の魅力・文化などをしっかりと見せて行けば、ロコミでヨーロッパ圏にも広がっていくのではないかと感じる。それでは委員会を進めていくが、本日はパブリックコメントの結果と、それを受けての最終の計画案について議論したい。

3 議事

(1) パブリックコメントの結果について

事務局（市）： 資料に基づいて説明。

委員長： 具体的な例を用いて意見があったが、それらは振興計画の中に含まれている内容なので参考にするという説明である。意見、質問等をお願いします。

委員： 頂いたコメントはかなり具体論を挙げている。具体論の展開として看板の整備であればお金を掛けずに力を入れられるのではないかと感じた。そういうメリハリをつける必要があると感じた。看板について言えば河内長野駅に高野街道の看板が無いので入口が分からない。現場を見て審議すれば観光客に対して良くなると思う。烏帽子形城の看板が実態とずれている。看板の設置はすぐに出来る貴重な提言なので考えて欲しい。

委員長： それについては「基本方針3 戦略③観光インフラの整備」で謳っているのですが、ここにあてはまると認識しているが、より意識して行ってほしいという意見。

事務局（市）： 地元との調整も必要で一足飛びに出来ないところもあるが、実際に歩いた人な

どの意見なので参考にして、観光振興計画の進め方につなげていくところだと思っている。

委員長：現場を知っている人の意見は非常に重要。60代以上の体力、時間のある人を利用し、無給で調査をしてくれるボランティアチームを立ち上げ、案内板の設置場所の調査を行えば具体的に動くのではないか。行き先が解れば良いという目的であれば、工夫して手作り感のあるものでもよいのではないか。

委員：補足すると、かわちながの観光ボランティア倶楽部は駅前の案内所を請負っている。そこででの対応に観光客には簡単な1枚ものの案内地図を渡す。看板があれば、渡した地図と併せて観光客に解りやすくなる。そういう部分を配慮して準備するのが課題と感ずる。

委員：市の考え方について、計画策定を4月から行ってきて基本方針はあるが、「何かをやっつけよう」「これをする」という具体性が見えてこない。なにか1つを重点課題として「今年はこちらを進める」というふうに決めていかなければ、基本方針だけで終わってしまう。旅行会社がコースを組んだ場合はバス、食事、宿泊、土産物屋に立ち寄った手数料で利益が成り立つ。河内長野にはそれらの良いところがある。だが河内長野のコースを組んだ場合、客は喜ぶが、旅行会社にメリットがない。河内長野の良さを、どう伝えていくかを必死になって考え、何かを打ち出さないと。

委員長：本計画を基に、具体的な施策や予算要求をしていくという考え方で、本計画の第5章にあるスケジュールに沿って進めていくという考え方でいいですか。

事務局（市）：本計画の第5章にあるスケジュールでも、前期・中期・後期と時期を想定しながら挙げている。第4章の重点取組については、計画が出来てから進めるというわけではなくて今の時点からできることは取り組んでいっている。重点①歴史・文化を生かした観光事業の推進などは国宝認定で追い風も来ているところをチャンスととらえ、国の補助金なども活用しながら力を入れていく。そのほか、重点③の観光ハブ拠点の整備による観光事業の推進についても、道の駅 奥河内くろまろの郷や河内長野前の観光案内所などのハブ拠点を整備し情報発信をしやすい体制の整理を考えている。なかなか観光振興についてどんな施策を打っていくのかが見えにくい部分があると思うが、この計画の内容を基にして着実に進めていきたいと考えている。

事務局（市）：平成30年度に行うことについても補助金などを活用しながら進めていきたい。観光地におけるトイレの洋式化や滝畑ダムのサイクリングルート整備、道の駅 奥河内くろまろの郷での観光案内機能の強化、旅行代理店の営業の強化など必要と思われる策を、個別に進めて行く。

委員長：平成30年度から重点施策を中心に進めていく、観光振興計画は大きな枠組で市の施策を挙げているという事です。パブリックコメントの意見の内容は、すべ

て含まれているということで了承いただき、次の議事へ進んでよろしいでしょうか。

～一同了承～

(2) 河内長野市観光振興計画（最終案）について

事務局（市）： 資料に基づいて説明。

委員長： パブリックコメントに出した計画から変わったところは、5ページのグラフ内の文言修正と、写真の差し替えのみ。ご意見などがあればお願いしたい。

副委員長： 内容ではなくレイアウトが気になった。本来、戦略があって重点取組があるのが流れ。重点取組が大切なので矢印の向きは上から下、左から右に統一した方が見やすいかと思う。

事務局（市）： その部分については庁内でも議論があった。見せ方として計画本編の流れに沿ったものにしたいという思いがあり、このように決まった。

委員長： 計画全体を1枚で表すのは行政独特の文化。よく考えて頂いて変えてもいいかもしれない。

事務局（市）： これから力をいれる点を先に出し、それを実現するための施策を後ろで説明する形をとった。重点取組のまとめを先に持っている事には思いがあるので、そのままお願いします。

副委員長： 河内長野市の振興計画のトップに来る方針や戦略について、やっている事はあるのに見えていないから市民から質問が来る。動いている事があるなら市民に見せることで、意見をくれた市民に対して返せる。単年度ずつでもアクションプランを出して「見える化」をしていった方が良い。

事務局（市）： 本日も委員会の前に市民に向けた観光のセミナーを開催した。お越し頂いた市民の方にとっては、観光を考える機会になったと思う。振興計画を市民や事業者と、どう共有していくかが非常に重要。しっかりと進めていきたい。

委員長： ほかにはございませんか。それでは振興計画について、これまで3回の委員会でまとめてきた内容ですので、これを最終案としたい。

～一同了承～

(3) その他の議案

事務局（市）： 今後のスケジュールとしては、承認頂きました計画内容について語句の間違い等を再確認し、庁内で最終確定をします。確定したらご案内いたします。3月末までに進めたい。よろしく申し上げます。

委員長： 最後なので感想や自由な意見を頂きたい。着席順にお願いします。

委員： ボランティアガイドなど観光に携わっていればいろんな情報が入ってくるが、市民には届いていないのではないかと感じる。例えば市の広報で具体的な中身

を取り上げれば市民に観光計画が見えてくるのではないかな。そういう工夫があるのかなと思う。それが解れば市民に協力が頂ける。

委員：旧来の発想でいくと観光は業者が作って売り込む形だったが、段々ありようも変わってきていると思う。私たちは鉄道会社として旅客誘致のPR活動を行っているが、今までと同じようなことだけをやっているはいけないのかなと思う。情報発信の手段としてSNSを使ったりするが、市民に知ってもらい、良いと思ってもらえる事によって、市民が広告塔になりSNSで発信してくれるようになれば、よりPRが出来るのではないかなと思う。

事務局（市）：市民への広報について、来月の広報4月号は6ページ割いて観光がテーマの特集を組む予定。これからも観光の取り組みを市民に知ってもらうように進めていきたいと思っている。

委員：組織が大きいと簡単にはいかないと思うが、具体的な目標を立てて、それに向けてやってほしい。一市民の意見としては河内長野を良くしていく為に「今年はこれを行う」というテーマを打ち出して行ければと思った。

委員：2年ぶりに河内長野に帰ってきたが、昔の河内長野はもっと観光で栄えていた記憶がある。先に話が出たが、河内長野の広報の立派さはおそらく日本有数だ。市のホームページは観光客を集める目的だが、広報は、観光を市民が楽しみに読む、市民と繋がるツールにしてもらいたい。また国際交流協会などを通じて外国人のための発信などに努めてもらいたい。

委員：河内長野市商店連合会からすれば、お土産販売強化、食べ歩きの実を具体的に進めていけばいいのだと思う。車社会である河内長野に店舗が点在しており、バックパッカー含めて電車で来る観光客は駅を拠点にして動ける範囲に限られている。駅周辺を充実させる必要がある。観光と商売を結び付けようとしたら、儲かる仕組みを作らなければ長続きしない。市商工会、市商店連合会が観光協会や南海電車とタイアップして、観光と繋げていければよいと思う。観光客が一番多いアミューズメント施設である関西サイクルスポーツセンターは、もっとPRをしていくべきだと思う。

副委員長：アクションプランのことに触れたが、計画を作ったあと、「この後どうするか」が大事。絵に描いた餅にならないようにしてほしい。例えば、プロジェクト毎にワーキンググループを作ることなども考えてほしい。観光の事を考える土台を作り、真剣に考えているという姿勢を見せて、市民・事業者が観光の事を考えてもらう機会を作るべきだと思う。観光は1年、2年では育たない。時間をかけて大きくしていくものだと思う。それには市民の力、アイデアが必要で、河内長野市民にはその力もあると思う。その力で観光振興を進めてほしい。

委員長：平成30年度の総務省の予算に「関係人口創出事業」が新しく始まる。「関係人口」とは、例えば河内長野出身者や、親せきがいる。あるいは、ふるさと納税

をした人といった、なんらかの関わりを持った人のこと。今は Facebook など
で、ターゲットを絞って情報発信が出来る時代。河内長野の関係人口に広告が
打てる。交流人口も大切だが、関係人口に PR すれば、より伝わるのかなと思
う。それと、若い人たちの車離れが進んでいる。車でしか巡れない河内長野の
観光魅力は、これからの若者には観光しにくいところになりえる。若者がバス
なりの公共交通機関で観光できるよう整備が課題と思う。今回を含め4回の委
員会で、目標とした振興計画の案が出来た。私も河内長野市民なので今後も市
民の一人として意見を言っていきたいと思う。みなさんもこれを機会に、計画
通り河内長野の観光が進んでいくか見守ってもらいたいと思う。

事務局（市）： 本日も長時間ありがとうございました。数か月間もの長い期間にわたり、ご審
議頂きありがとうございました。今後も引き続きご指導いただきたい。

4 閉会のあいさつ（太口環境経済部長）

～閉会～